

浦口こうてんの 県政報告

発行：浦口こうてん事務所 〒641-0045 和歌山市堀止西1-10-14
TEL: 073-424-4860 FAX: 073-424-3733

E-mail: mail@kouten-u.jp
URL: http://www.kouten-u.jp

Facebook
HP 浦口こうてん

令和5年
(2023)2月 Vol.16

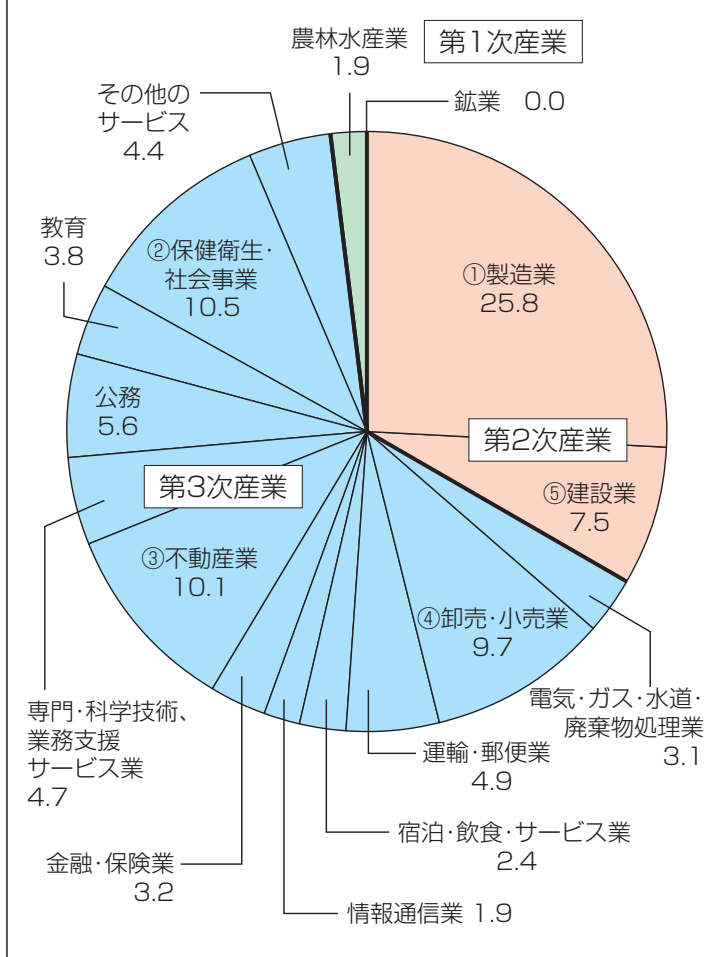
○県内総生産の状況(令和元年度)

(単位：億円、%)

	名目	構成比
	県内総生産	37,446 100.0
第一次産業	(1) 農業	603 1.6
	(2) 林業	29 0.1
	(3) 水産業	91 0.2
第二次産業	(4) 鉱業	13 0.0
	(5) 製造業	9,672 25.8
	(6) 建設業	2,802 7.5
第三次産業	(7) 電気・ガス・水道・廃棄物処理業	1,153 3.1
	(8) 卸売・小売業	3,616 9.7
	(9) 運輸・郵便業	1,853 4.9
	(10) 宿泊・飲食サービス業	902 2.4
	(11) 情報通信業	728 1.9
	(12) 金融・保険業	1,200 3.2
	(13) 不動産業	3,767 10.1
	(14) 専門・科学技術、業務支援サービス業	1,777 4.7
	(15) 公務	2,100 5.6
	(16) 教育	1,412 3.8
	(17) 保健衛生・社会事業	3,918 10.5
	(18) その他のサービス	1,660 4.4
(参考)	第一次産業	722 1.9
	第二次産業	12,487 33.3
	第三次産業	24,086 64.3

経済活動別県内総生産(名目：構成比)

※丸数字は構成比上位5産業



令和4年4月20日 和歌山県議会臨時本会議
「和歌山IR(統合型リゾート施設)議案」

賛成18・反対22で否決!

「和歌山経済再生の
最大チャンス」を
逃がす!!

和歌山市民の皆様、平素は何かとお世話になり、誠にありがとうございます。お陰様で私も「本気で和歌山を元気に!!」するために、日々精一杯頑張っております。

普段は、県会議員として「県民起点の県政」という視点で「人口激減・超高齢先進・要介護認定率6年連続全国第1位」(原因は「若者多数県外流出」も!?)の和歌山県の現状を客観的なデータで示し、その改善策として、〈運動〉〈栄養〉〈社会参加〉の三要件を掲げつつ、「わかやま100歳大学」の開設や「健康長寿日本一わかやま」の実現に向け、政策提言を〔行政〕に、実践は〔市民〕と、並びにそのチェックは〔議会〕で行い、更に次の段階へと進めております。

しかし、今回は、マクロ経済の視点から見た和歌山県経済の再生、具体的にはIRについて述べたいと思います。標記のとおり、「和歌山IR(以下、IR)議案」は否決され、4月28日までに県から国へ提出する予定の約200ページの申請書が、活用されずに終わってしまいました。

これまで和歌山県の地域経済をリードしてきたのは鉄鋼、石油、化学産業といった重化学工業で、昭和60年前後までは、豊かさを享受してきましたが、産業構造が情報通信、電子、輸送機器などにシフトする中、現状はその変化に乗り切れず、徐々に活力を失っています。

最近の日本製鉄㈱〔和歌山市・旧住友金属〕の高炉休止(最盛期の5基から現在は1基に)や、ENEOS㈱和歌山製油所〔有田市・旧東燃〕の来秋機能停止の発表はその象徴的な出来事で、関連会社や地域住民にとって、どれだけ大きな影響があるか計り知れません。

その結果、例えば私が、平成31年2月県議会で国勢調査のデータを提示し紹介しましたが、1985年(昭和60年)から2015年(平成27年)までの30年間で、全国47都道府県庁所在地の中で、和歌山市は2番目に高い「人口減少率」でした。その前後を見ると、1番高い長崎市は造船業の縮小、3番目の青森市は、本州北端で雪深いことも影響しているとのことでした。幸いにして和歌山市は、ほぼ雪は積りませんので、「本気で和歌山を元気に!!」していくためには、**新たな経済発展のエンジン**を作っていくことは不可欠であります。

そこでIRですが、まずIR＝カジノ(≒ギャンブル依存症)と一部の方たちが言われておりましたが、**カジノ施設がIR施設に占める面積は、IR整備法の規制で施設全体の延床面積の僅か3%以下とされています。**つまり、残りの97%はホテルや展示施設、日本の魅力を発信する施設など、これまで日本にない複合的な観光集客施設ということです。また、ギャンブル依存症を未然に防止するため**万全の準備**もされていました。

一方、IRの経済波及効果は、観光産業のみならず、飲食業から農林水産業、交通運輸業、警備業、情報通信業等、様々な産業に及びます。



和歌山県議会議員(5期)

浦口 高典

〈プロフィール〉

- ・1955(昭和30)年3月7日和歌山市生まれ(今福在住)
- ・高松小・和大附属中・耐久高・早稲田大学卒業
- ・スポーツ用品メーカーのミズノ㈱社員
- ・故玉置和郎(元・総務庁長官)秘書
- ・北川正恭(元・三重県知事)秘書
- ・Lマニフェスト地方議員連盟共同代表
- ・和歌山県議会福祉環境委員長(三回)
- ・関西広域連合議会総務副委員長
- ・国民民主党和歌山県連代表
- ・和歌山市スポーツ推進員・同健康推進員
- ・和歌山保護観察所保護司・今福消防団員(25年)
- ・好きな言葉/「勇氣凛々 覇氣満々」
- ・ニックネーム/紀州のキンタロー
- ・ニッケンスクール高典塾塾長(日本拳法師範・八段)
〔昭和52年度 全日本拳法中量級チャンピオン〕

更に、年間650万人の来場者ということを見ると、IR地区(マリーナシティ)だけの人の往来ではなく、例えば、IRをベースにした和歌山市内の観光地(和歌山城、紀三井寺、和歌浦ほか)や商業地(ぶらくり丁、JR和歌山駅周辺、市駅周辺ほか)、また夜の歓楽街(アロチ、築地ほか)へ来訪客を、定期的に専用バス等で巡回してもらうといったことも可能でした。そのための方法はいくらでもあり、私はそのことに拘り質問もし、前向きな返答も頂きました。

また、これらIR事業にかかる投資は民設民営で行われ、公費が投入されることはありません。和歌山県の計画ではホテル(ラスベガスを代表する老舗名門ホテルのシーザースパレスがアジア初進出)、国際会議場、展示施設等IR施設の建設に伴う初期投資額は約4,700億円、開業して3年後の2030年には運営に伴う経済波及効果は約3,500億円と想定され、これは和歌山県の県内総生産約3.5兆円の約1割に相当するものでした。

さらに、IR施設の運営に伴い約6,300人に及ぶ雇用が見込まれるとともに、事業者から納付される納付金・入場料収入は年間約360億円と想定され、これら新たな歳入は県財政の改善のみならず、例えば「保育料無償化などの子育て支援」、「教育に係る経済的負担の抜本的軽減」「文化資源の保存・承継・活用」など県民の暮らしを支え、将来の和歌山県・市の持続的発展に繋がる内容となっています。

この計画の資金調達については、世界の金融大手であるクレディ・スイスが中心になり、具体的な出資・融資企業名も名乗りを上げ、また日本企業の参加に関しても、㈱KADOKAWA、楽天グループ㈱、日本コンベンションサービス㈱といった大手日本企業が、施設の委託事業者として役割を担って頂けるとのことでした。

このような理由で、自信を持って「賛成に1票」を投じた私と致しましては、残念でなりません。しかも、国が上限3つまでと具体的な数字まで示し、大阪、長崎、そして和歌山に絞られていただけに余計に残念です。つまりこの事業を最終決定するのは国であり、県ではないことを考えれば、申請書を提出すらできなかったことは、正に「和歌山経済再生の最大チャンス」を自ら逃してしまった、と言っても過言ではありません。

それだけに、現時点でIRに匹敵する規模の「経済再生策」を見つけてるのは難しいと思います。しかし、和歌山県の「人口減少」「高齢化」「若者多数県外流出」は、益々進むことを改めて県民の皆様と共有しつつ、一県議員として、精一杯頑張る覚悟でございますので、どうぞ今後ともご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

前「IR対策特別委員会」委員 感謝合掌

参照 各議員の賛否等は、令和4年5月10日読売新聞・和歌山版に。

人口激減
(若者県外流出)
超高齢先進
将来不安...

経済再生を!!
健康長寿
日本一も!
(ウラ面参照)

浦口こうてんの日常活動



▲全国一古い歴史をもつ母校・耐久高校にて創立170周年記念式典会場



▲本年度「マグサイサイ賞」受賞の服部医師と



▲県議会議場より一般質問



▲国民民主党・玉木代表と



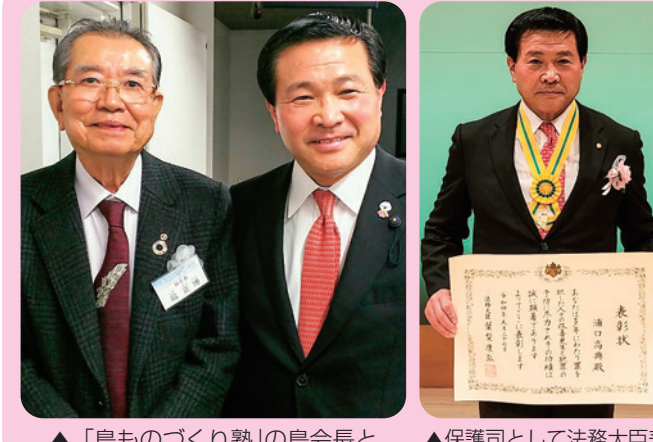
▲福祉環境委員長として、委員会メンバーと大東市役所へ



▲和歌山県知事選挙県庁正面前にて司会進行



▲改新クラブ(5名)で、出雲地方(島根)の製鉄の歴史を視察



▲「島のづくり塾」の島会長と



▲保護司として法務大臣表彰



▲和歌山放送(ラジオ)の「やるぜ!てっきゅう先生のサタデーナイト」に出演



▲旧民主党の同志、石井西宮市長(兵庫県)と



▲海員組合の下副知事への陳情



▲竹垣流家元(右)から教えるを受ける中学時代の恩師・大江先生と(元・和歌山市教育長)



▲国民民主党県連常任幹事会



▲総務委員会の福島口ボットテスト場視察



▲竹垣流新年会にて、家元のご主人で和大附属中の同級生・宇治田氏と



▲和歌山商工まつり「輝くわかやま」



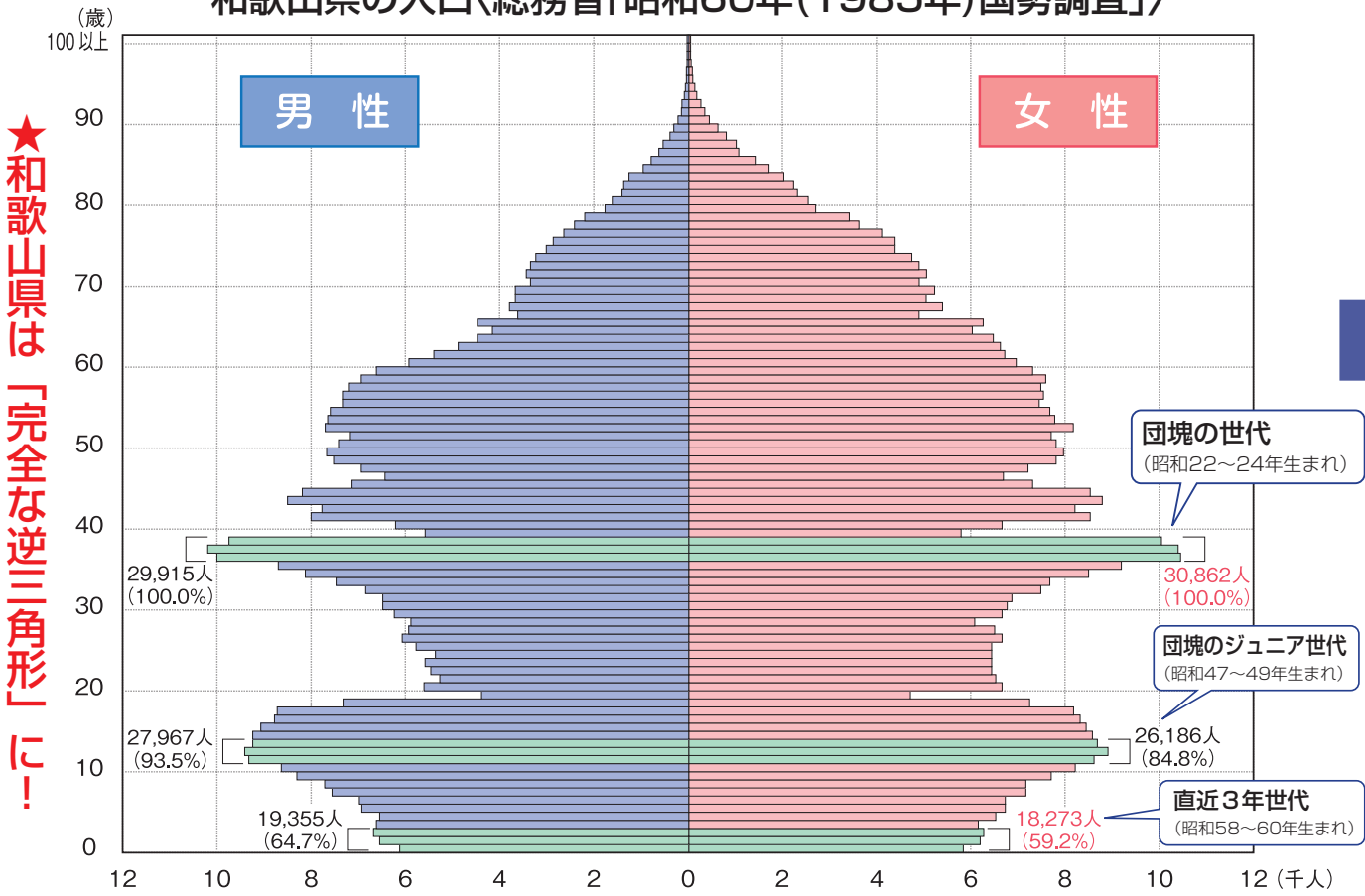
▲介護予防「シニアエクササイズ」の体験会



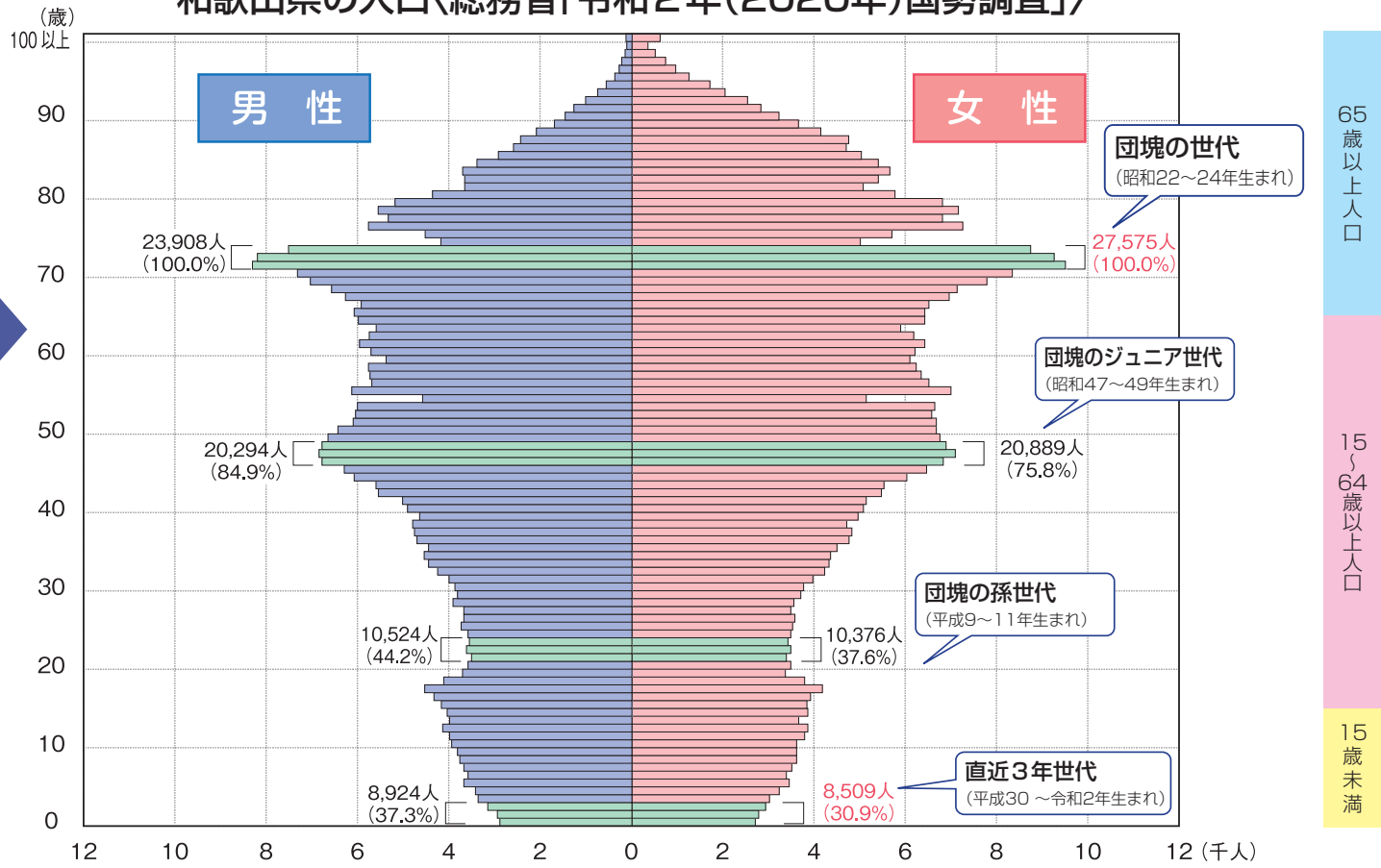
<浦口高典議員の質問に関する資料:項目1(1)>

1. 和歌山県・和歌山市(1985年～2020年)人口推移①

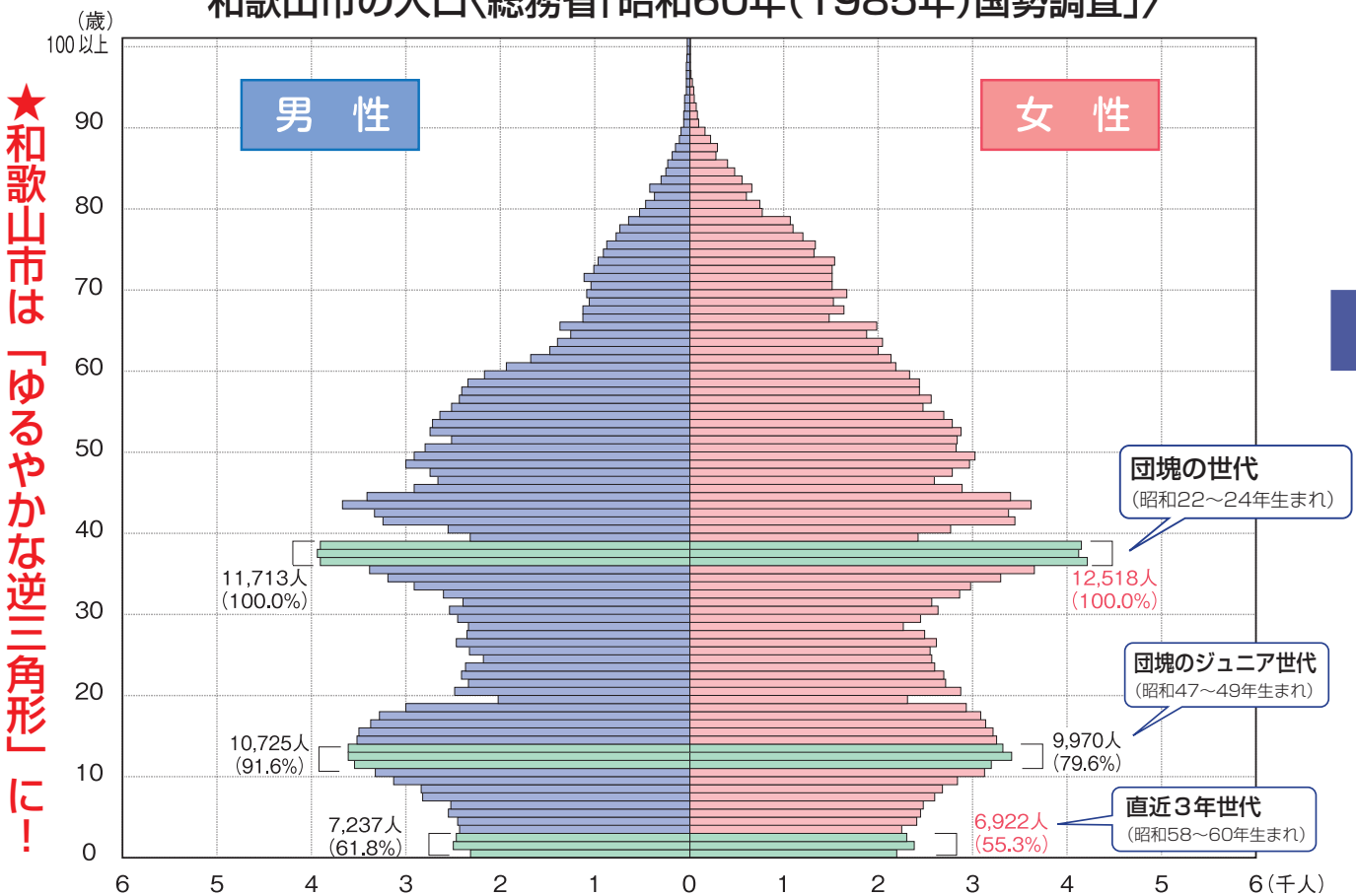
和歌山県の人口(総務省「昭和60年(1985年)国勢調査」)



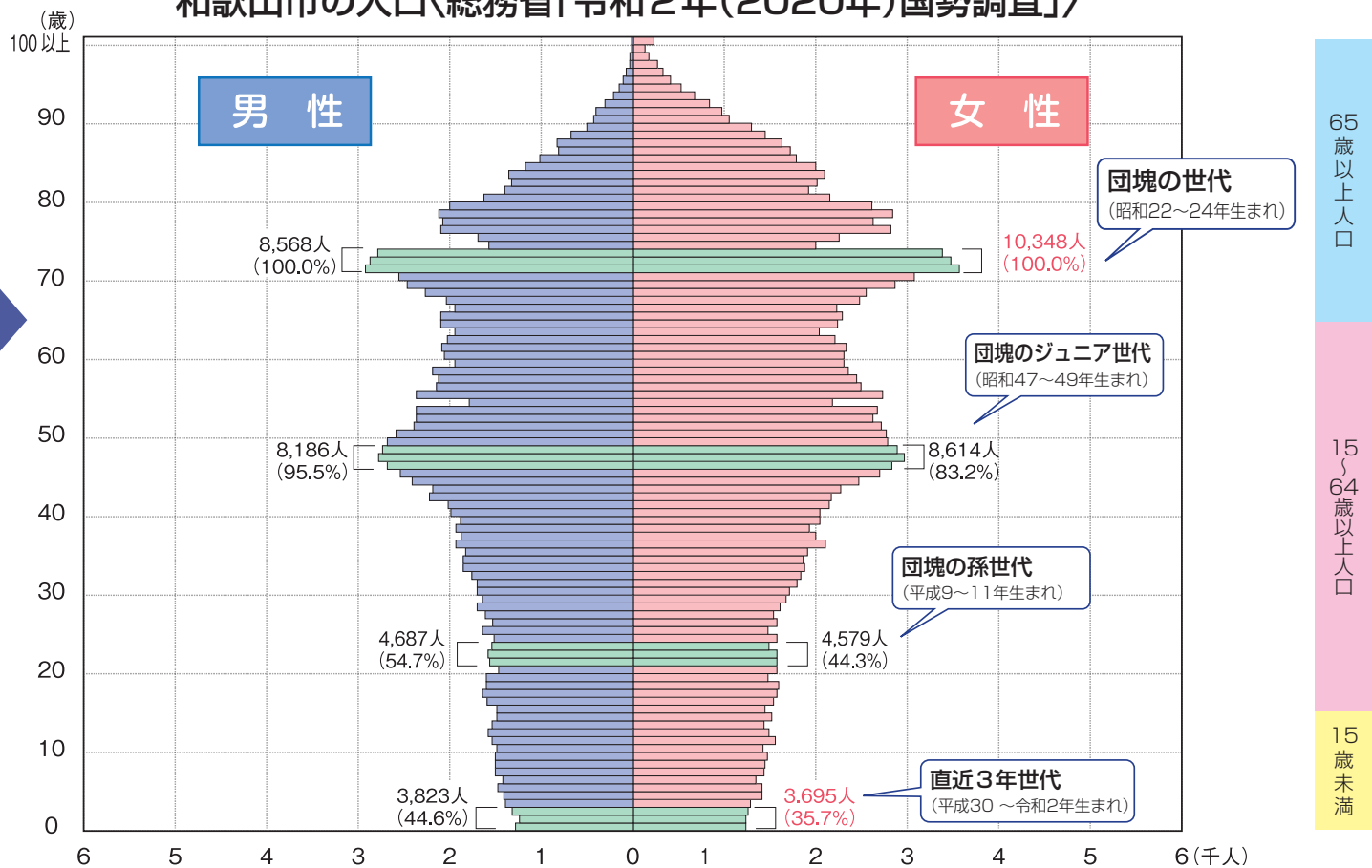
和歌山県の人口(総務省「令和2年(2020年)国勢調査」)



和歌山市の人口(総務省「昭和60年(1985年)国勢調査」)



和歌山市の人口(総務省「令和2年(2020年)国勢調査」)



<浦口高典議員の質問に関する資料① 項目:1-(1)>

和歌山県人口の推移

(単位:人、%)

西暦	和暦	総数 人口最大値	15歳未満		15～64歳 (生産年齢人口)		65歳以上 (高齢者人口)	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合
1985年	昭和60年	1,087,206	225,208	20.7	718,380	66.1	143,533	13.2
2005年	平成17年	1,035,969	142,670	13.8	642,428	62.1	249,473	24.1
2010年	平成22年	1,002,198	128,005	12.9	594,573	59.8	270,846	27.3
2015年	平成27年	963,579	116,412	12.1	546,279	57.0	296,239	30.9
2020年	令和2年	922,584	105,360	11.5	503,704	55.1	305,500	33.4
2022年	令和4年	906,968	—	—	—	—	—	—
2025年	令和7年	876,000	—	—	—	—	—	—
2030年	令和12年	829,000	—	—	—	—	—	—
2035年	令和17年	782,000	—	—	—	—	—	—
2040年	令和22年	734,000	—	—	—	—	—	—
2045年	令和27年	688,000	—	—	—	—	—	—

○平成17年～令和2年は国勢調査確定値

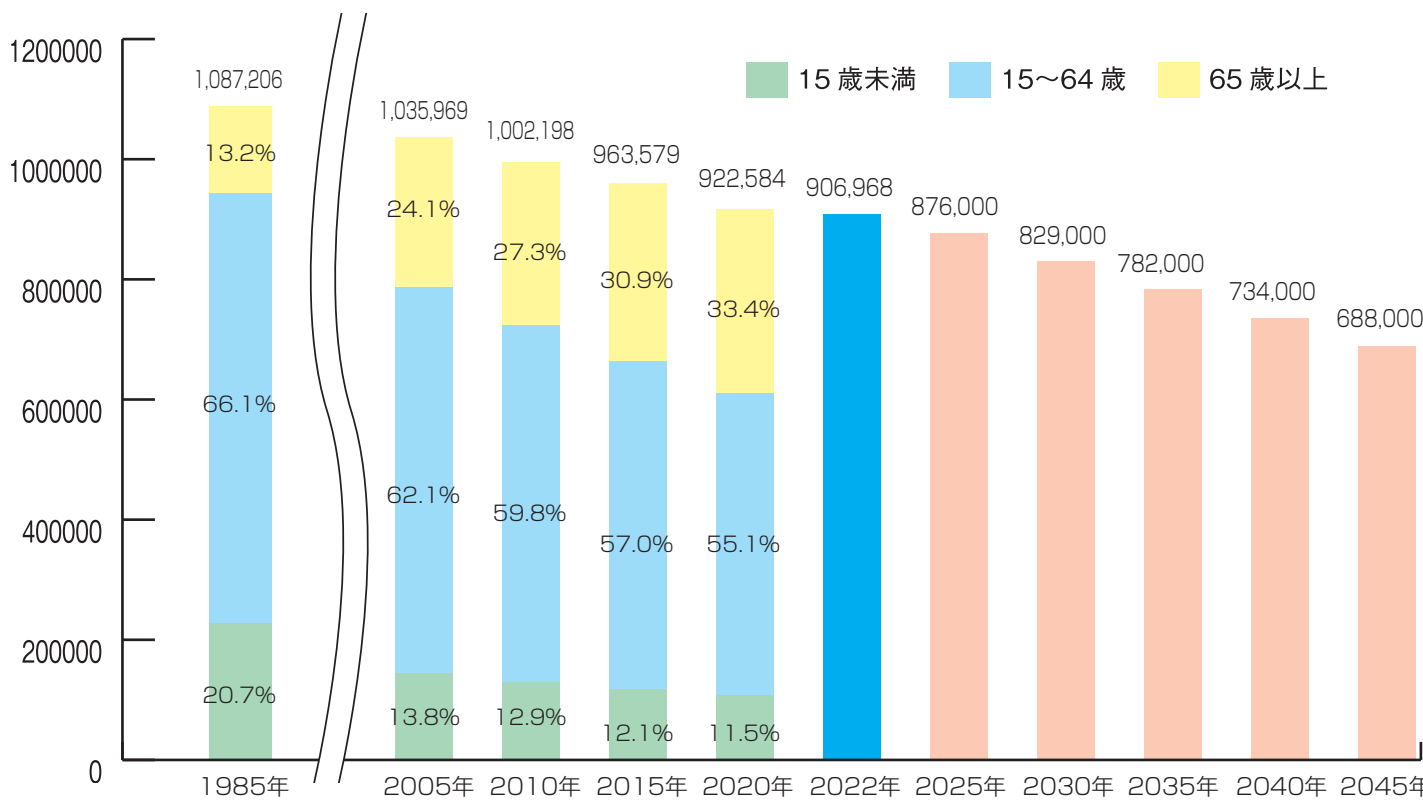
注1)総数は年齢「不詳」を含む。

注2)割合は、分母から不詳を除いて算出している。

★実は、これからが本格的な「人口減少期」に！

○令和4年は令和4年4月1日現在の推計人口(令和2年国勢調査確定値を基礎に算出)【調査統計課HPより】

○令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所の推計値(平成27年国勢調査を基礎に算出)



<国勢調査等を基に浦口高典議員作成>

●都道府県別の健康寿命(平成17年⇒令和2年)

平成17年

	男	順位		女	順位
長野県	77.02	1	山梨県	80.85	1
滋賀県	76.96	2	長野県	80.71	2
福井県	76.96	3	茨城県	80.63	3
埼玉県	76.71	4	福井県	80.61	4
神奈川県	76.66	5	滋賀県	80.52	5
静岡県	76.65	6	静岡県	80.50	6
岐阜県	76.58	7	新潟県	80.47	7
千葉県	76.58	8	山形県	80.37	8
愛知県	76.54	9	千葉県	80.25	9
奈良県	76.44	10	岐阜県	80.19	10
山梨県	76.43	11	福島県	80.19	11
京都府	76.39	12	鳥取県	80.18	12
石川県	76.37	13	栃木県	80.16	13
東京都	76.32	14	埼玉県	80.08	14
山形県	76.20	15	石川県	80.04	15
群馬県	76.20	16	宮崎県	80.02	16
熊本県	76.18	17	宮城県	79.98	17
茨城県	76.14	18	群馬県	79.96	18
新潟県	76.11	19	愛知県	79.88	19
香川県	76.09	20	高知県	79.84	20
富山県	76.07	21	富山県	79.84	21
三重県	76.00	22	熊本県	79.83	22
岡山県	75.99	23	岩手県	79.72	23
宮城県	75.97	24	神奈川県	79.72	24
広島県	75.93	25	島根県	79.71	25
栃木県	75.91	26	香川県	79.67	26
宮崎県	75.85	27	青森県	79.62	27
兵庫県	75.77	28	岡山県	79.59	28
大分県	75.76	29	山口県	79.53	29
福島県	75.61	30	京都府	79.47	30
山口県	75.54	31	沖縄県	79.41	31
北海道	75.53	32	奈良県	79.39	32
沖縄県	75.51	33	佐賀県	79.37	33
佐賀県	75.45	34	北海道	79.37	34
鳥取県	75.41	35	東京都	79.34	35
島根県	75.26	36	三重県	79.33	36
愛媛県	75.22	37	広島県	79.12	37
高知県	75.17	38	大分県	79.10	38
福岡県	75.17	39	兵庫県	79.06	39
鹿児島県	75.10	40	愛媛県	79.05	40
岩手県	75.10	41	鹿児島県	78.83	41
和歌山県	75.06	42	福岡県	78.80	42
徳島県	75.01	43	長崎県	78.53	43
大阪府	74.94	44	徳島県	78.52	44
長崎県	74.89	45	和歌山県	78.45	45
秋田県	74.36	46	秋田県	78.45	46
青森県	73.70	47	大阪府	78.04	47

平成17年 ●平成25年4月発行「浦口こうてんの県政報告」掲載記事より抜粋

令和2年 ●健康寿命の算定方法の指針(平成24年9月厚生労働科学研究)を利用した算定

●介護認定者数は、「介護保険事業状況報告 令和2年10月分」を利用した概数

※平成17年と令和2年では算定方法が異なるため単純な比較はできない。

令和2年

	男	順位		女	順位
長野県	79.75	1	山梨県	82.60	1
滋賀県	79.75	2	長野県	82.55	2
岐阜県	79.46	3	鳥取県	82.35	3
奈良県	79.32	4	石川県	82.17	4
山梨県	79.18	5	大分県	82.15	5
福井県	79.15	6	宮崎県	82.08	6
石川県	79.12	7	佐賀県	82.02	7
静岡県	79.03	8	福井県	81.97	8
広島県	79.02	9	静岡県	81.95	9
神奈川県	79.01	10	富山県	81.82	10
愛知県	78.99	11	熊本県	81.81	11
富山県	78.99	12	滋賀県	81.80	12
大分県	78.98	13	岐阜県	81.77	13
山形県	78.94	14	神奈川県	81.76	14
熊本県	78.88	15	山形県	81.71	15
宮城県	78.87	16	高知県	81.70	16
三重県	78.83	17	新潟県	81.65	17
埼玉県	78.75	18	愛知県	81.65	18
鳥取県	78.74	19	島根県	81.64	19
千葉県	78.72	20	沖縄県	81.63	20
京都府	78.71	21	埼玉県	81.61	21
東京都	78.67	22	千葉県	81.57	22
佐賀県	78.65	23	茨城県	81.50	23
新潟県	78.65	24	広島県	81.46	24
岡山県	78.62	25	山口県	81.46	25
群馬県	78.60	26	東京都	81.45	26
栃木県	78.58	27	栃木県	81.45	27
宮崎県	78.55	28	宮城県	81.40	28
島根県	78.55	29	群馬県	81.39	29
茨城県	78.42	30	岡山県	81.32	30
福岡県	78.41	31	岩手県	81.30	31
香川県	78.39	32	奈良県	81.28	32
兵庫県	78.39	33	福岡県	81.22	33
山口県	78.38	34	鹿児島県	81.22	34
高知県	78.18	35	三重県	81.21	35
愛媛県	78.14	36	秋田県	81.18	36
徳島県	78.12	37	青森県	81.05	37
岩手県	78.07	38	京都府	81.00	38
和歌山県	78.00	39	長崎県	80.99	39
北海道	77.99	40	兵庫県	80.95	40
沖縄県	77.99	41	福島県	80.86	41
長崎県	77.98	42	香川県	80.80	42
鹿児島県	77.89	43	北海道	80.71	43
福島県	77.84	44	徳島県	80.64	44
秋田県	77.71	45	愛媛県	80.57	45
大阪府	77.39	46	和歌山県	80.47	46
青森県	76.97	47	大阪府	80.14	47

<平成25年4月発行「浦口こうてんの県政報告」等を基に浦口高典議員作成>